



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2015

ROUND6 Chang Int.Circuit , THAILAND

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#11)
兵藤龍之介(#12)
- 開催日/サーキット : 2015年12月3日(木)~12月6日(日)
Chang Int Circuit (Buriram THAILAND)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1 2位 レース2 2位 シリーズチャンピオン獲得
兵藤龍之介 レース1 リタイア レース2 12位 ランキング8位

2015アジアロードレースチャンピオンシップ(ARRC)、最終戦の第6戦はタイランド・ブリラム チャンサーキットで開催される。今回は木曜日から公式練習が行われ4日間のレースウィークとなる。TRICK STAR Racing のライダー・スタッフは寒い日本から日中30℃を越す気温のタイランドに到着し体調管理に気を配る。



【12月4日(金) 公式予選】

Qualify 14:30~15:00 天候:晴れ コース:ドライ

#11 山本剛大 1'57"415 3位

チーム計測では気温31℃ 路面温度42℃ そして少し風が吹いているの中、公式予選が始まる。予選開始後、殆どのライダーがスリップストリームを使おうとゆっくりと走行し速いライダーの後ろにつけようとする。山本は計測3周目まで他車に邪魔をされないようタイムアタックするポジションを探しながら走行した。4周目にアタックに入り1分57秒700を記録しモニタートップに掲示され6周目には1分57秒415とタイムを更新する。一度ピットに戻りマシンの状況をメカニックに伝え、そしてモニターで状況を確認して再度コースインする。再度タイムアタックに入ろうとするが、未だ速いライダーに引っ張ってもらいタイムを上げようとするライダーがコースを徐行している。その中でアタック出来そうなポジションを探すが、残り時間から後1周のアタックとなりストレートを通過する。しかし最後のアタックラップでは遅いライダーに追いついてしまう。その間にライバル達がタイムを更新し、結果3番手で予選を終了する。

#12 兵藤龍之介 Do Not Start

予選開始後3周はタイムアタックできるポジションを探しながら走行する。兵藤も4周目にタイムアタックに入り、1分59秒844を記録する。5・6周目とアタックできるポジションを探し7周目に再度アタックし1分59秒686とタイムを更新する。その後ピットに戻りマシンの状況をメカニックに伝え再度コースイン。予選終了間際、残り計測が1周になろうとしている時、最終コーナー進入で徐行している10台ほどのライダーを抜きタイムアタックに入る。最後のアタックラップは単独での走行で1分59秒775だった。



TRICK STAR

【12月5日(土) 決勝レース1】

Final 1 15:00～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:32℃ 路面温度:32℃

山本剛大 フロントロー3番手 兵藤龍之介7列目21番手からスタート。

決勝日朝のウォームアップ走行の路面温度は39℃だったが、曇り空になってきて32℃まで下がる。

#11 山本剛大

スタートを上手く決めるが、1コーナー進入は4番手で入り3コーナーまでにトップに上がる。レース序盤、ライバル達が懸命にポジション争いをし、無理にインを突っ込んでくるのをかわしながら1周目終了時点では10番手でコントロールラインを通過する。2周目4コーナー進入までに3番手にポジションアップ。6コーナーでは5番手に。目まぐるしく順位が変わる。3周目4コーナーまでにトップに上がり、グループを引っ張る。2番手との差は+0.1秒。4周目は5番手で通過するが5周目には再びトップに上がり5台のトップ集団になっていく。6周目はトップグループ5台の後ろにつけライバル達の動きを観察する。4番手との差は-0.1秒・6番手との差は+1.1秒。7周目3コーナーまでに3番手に上がるがコントロールライン通過時は7番手に下がる。トップグループが牽制し合っている間に6番手以降の第2集団も追いついてくる。8周目3コーナーを5番手で進入し4コーナーではトップに上がり9周目に入る。ランキング2位の選手の位置を意識しながらラストラップに4番手で入る。3コーナーでトップに上がり、最終コーナーまでトップを維持しホームストレートに戻ってくる。チェッカーを2位で受け、アジアロードレースチャンピオンシップAP250クラス初代チャンピオンを獲得する。

#12 兵藤龍之介

スタートから果敢に攻め、1周目に7台を抜き14番手で戻ってくる。2周目にも4台ほど抜いて最終コーナーに進入する。その時後続のマシンが兵藤の右後方に突っ込んできた。激しい接触で、どうしようもなく転倒してしまいリタイヤになる。幸い怪我は無く決勝レース2に期待する。

【12月6日(日) 決勝レース2】

Final 2 15:00～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ 気温:30℃ 路面温度:43℃

#11 山本剛大

決勝レース2も1コーナーを4位で通過し3コーナーまでに2番手、4コーナーまでにトップに立つ。1周目終了時点では3番手で通過する。2周目最終コーナーの進入で1台抜き2番手に。3周目は3コーナーまでにトップに上がる。4コーナーで2番手になるが5コーナーまでに抜き返す。しかし最終コーナーで2台が先行し3番手で4周目に入る。4周目も3コーナーまでにトップに立つ。トリックスターNinja250のトップスピードが際立つ。5周目終了時点はトップで通過。後続に+0.1秒。6周目に最終コーナーではクリッピングポイントに付けず5番手に。しかし7周目の3コーナーまでにトップに躍り出る。8周目終了時点で4番手。9周目終了時点では6番手。最終ラップの3コーナーまでにトップに立つが5コーナーで2番手に。最終コーナーでは4番手だったがゴールラインまでに2位に上がりチェッカーを受ける。終始ライバル達とバトルを繰り返していたが抜かれても直ぐに抜き返すチャンピオンらしいレース展開だった。

#12 兵藤龍之介

決勝スタート後、混戦に巻き込まれ1周目に24番手で帰ってくる。しかしここから追い上げを始める。2周目は4台を抜き20番手。4周目は19番手。5周目は17番手。6周目は14番手。7周目は11番手までポジションを上げる。8周目12番手。9周目13番手で通過。最終ラップに1台を抜き12番手でゴールしランキング8位に終わる。10位まで1秒以内でゴールする混戦だったが11番手以降は少し差をつけられていた。やはりスタートポジションが最後まで響いた。

【ライダー 山本剛大選手 コメント】**予選 3位**

今回の予選はいつも以上にトップ3台のスリップストリームを使おうと考えコース上をゆっくり走るライダーが多く、なかなかタイムアタックが出来ない状況でした。予選前半に混雑した中でのタイムアタックで57秒4を記録して暫定トップになりました。しかしその後コース上の混雑はどんどん酷くなりピットスルーをしたり遅く走ったりと色々しましたがアタックするチャンスを見つける事が出来ず最後には他のライダーを引っ張ってしまい3位で予選を終えました。

Race1 2位

自身初めてのチャンピオン獲得がかかったレースということもあり、レースが始まる前は今年一番緊張していました。ですがスタートしてしまえば何時も通りレースに集中できました。ワイルドカードでタイの選手も多く参戦していたのでいつも以上にタイの選手に囲まれ、中にはとても危険な走りをする選手も何人かいましたが、それに引いていたら飲まれてしまうと思い抜かれたら抜き返すように攻めていきました。レースが後半になるにつれバトルが激しくなり集団もどんどん大きくなりました。それでもトップをすぐ奪い返す走りが功を奏して最終ラップのロングストレートでトップに立った時、ランキング2位の選手は後方に沈んでいました。最終ラップの最終コーナー、他の選手を警戒しすぎ突っ込みすぎてしまい2位に落ち、そのままチェッカーフラッグを受けましたが、ランキング2位の選手より前でゴールしたことによりシリーズチャンピオンを獲得する事が出来ました。

Race2 2位

前日にシリーズチャンピオンが決まったので、今年のラストレースとなるレース2はライバル達とのバトルを楽しんで走ろうと思いスタートしました。前日のレース1よりトップで走行し後続を引っ張り、プッシュし続け守りの気持ちが無いレースをしました。バトルもとても激しく普段だったら嫌だと思われるような混戦も楽しく戦うことが出来ました。最終ラップの最終コーナーでは4位で進入し、激しく接触している間をすり抜け優勝できそうでしたが、0.061秒足らず2位でチェッカーを受けました。ですが、今年のレースで1番レース中の激しいバトルを楽しむ事が出来ました。

一度はレースから完全に離れ、レースに対しての情熱が無くなってしまいましたでしたが、今年 鶴田監督からチームに誘われレースに復帰してARRC AP250クラスを戦いシリーズチャンピオンを獲得して、気付けば前以上にレースを好きになっていました。

1年間最高のチームで最高のスタッフ達と戦い、最高の結果を残すことができ、本当に幸せでした。

またこの機会を与えてくれた鶴田監督、チームスタッフ、スポンサー様、家族、そしてファンの皆さま、本当にありがとうございました。また来年のレースに向けて日々頑張っていくと思えます。



【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】

予選 21位

予選開始後、後ろの方からスタートしたのですが、みんな速いライダーの後ろに付けスリップストリームを使おうとユックリ走っていたので気にせず抜いていきました。初めの方はまだ悪くない順位だったのですが、ライバル達はスリップストリームを使い合いタイムアップしていて、自分は単独で走り続けタイムアタックしていたのですが、ライバル達のタイムを越せずに21番手で予選を終了しました。

Race1 転倒・リタイヤ

予選が悪かったので決勝スタート後の1・2周が重要だと思ったので、スタート直後からプッシュしライバル達を抜いて行きました。21番手からのスタートでスリップストリームも良く効き、1周目は14番手まで上がることが出来ました。2周目も3台ほど抜いたのですが、最終コーナーで後ろから突っ込まれて転倒してしまいリタイヤとなりました。

Race2 12位

スタートで少し失敗してしまい4台ぐらいに抜かれてしまいました。1・2周目は集団から抜け出せずにいたのですが、タイムを上げて何とか抜け出す事が出来ました。そこから前を走行している2台に追いつき3台でのバトルをしながらトップ集団に追いつけそうだったのですが、途中からタイムが伸びず追いつく事が出来ずに12位でゴールしました。とても悔しかったです。予選が良かったらと何度も思いました。

今シーズンを振り返って、シーズン当初はチームが用意してくれたマシンのトップスピードの速さでライバルをストレートで簡単に抜いていました。しかし自分がマシンの速さを生かすライディングをもっとする必要があるのに出来ていなくて、レースを熟していくうちに予選結果も芳しくなく決勝スタートグリッドは後ろになり、決勝結果も良い成績を残せなくなりました。マシンに頼ることなく何処が劣っているのか？何処でライバルと勝負するのか？を考えるようになり、自分の弱いところが見えてきました。特にブレーキングでは3・4台に一気に抜かれることもあり、最終戦では先輩方のアドバイスもありブレーキングを意識して頑張りました。ですが、まだまだライバル達と比べると全然勝負出来るまでに至っていないので、これからの課題として取り組みたいと思います。

速いマシンに乗っていたのにランキング8位は、とても悔しいです。

最後に応援してくださったファンの方、チームの方、スポンサー様、本当にありがとうございました。



【監督 鶴田竜二 コメント】

今回の最終戦タイラウンドは、我々にとって大切なレースであり、TRICK STAR Racing の今後を占う意味でも大変意義のある結果になりました。

勿論アジア選手権シリーズのAP250クラスに参戦する事を決めた時から何としてもタイトルを初年度で手中に収めたいと思って取り組んできましたが、しかしこうしてタイトルを手にする事ができ本当に夢のようです。

世界的に見て1番元気のあるアジアのマーケットで注目されているクラスのレースである為、各メーカー、特にHONDAやYAMAHAは毎戦物凄く力を入れていた事は周知の事実であり、通常では我々の体制ではメーカーには到底及ばない事はわかっていましたが、これまで培ってきたチームのノウハウと山本剛大選手のポテンシャルをフルに活かして戦ってきた事が勝因に結びついたのでと思います。

タイトルに向け山本選手にとって相当なプレッシャーがあったと思いますが、しかしそれをはね除けての見事な戦いっぷりでした。

彼自身も今年1年で大きく成長した1年になった事でしょう。

もう一人の兵藤龍之介選手は、前回のカタール戦で怪我による棄権をしましたが、今回は元気に最後まで走り切ってくれました。後もう少しでトップグループに入れるところまで来ましたので、今後の活躍に期待したいと思います。

アジアプロダクション250ccクラスは毎戦回を追うごとに激しさが増し、ファンを魅了してきております。そのレースの頂点に立てたと言う事はとても嬉しく名誉な事だと思っております。

こうして実際に我々プライベートチームがアジアの舞台でこうしてタイトルが獲れたことは、我々チームの自身になった事は事実ではありますが、同時に他のプライベートチームにも私達のようにこうして頑張ればチャンスがあるのだと言う事を知って貰えたと思います。

我々が今回タイトルを獲得を成し得た事で、日本をはじめアジアのモータースポーツの発展に繋がれば、こんな嬉しいことはありません。

今後もまだまだ微力ですが、我々チームの成長と業界に発展の為にさらにチャレンジして参りたいと思います。

最後になりましたが、ご支援頂いたスポンサー様、ご協力頂いた関係者の皆様、応援して頂いたファンの皆様、ライダーを含むチームクルーの皆、我々チームに関わった全ての皆様に感謝致します。

鶴田 竜二

